



所  
號 170  
卷 3

本清

賣油郎卷之三



いろりくもの

浪速

芝屋子之屋  
遺話



鄙は都の女周と評さるゝハ美は果平の如く小くも。  
 風般清操ある名妓世々より多かる中は清の吟  
 原も亦  
 又おふし。かゝこの方さハガ。りま。ば。行幸。ま。や。と。ら  
 又やま。ば。鴨。系。の。台。鼎。あ。ま。ま。の。遊。女。幫。回。ま。ど。引。つ。れ。て。  
 踏。青。の。ぬ。る。さ。と。え。え。て。一。個。の。了。髪。志。ど。け。ぬ。く。笑。ひ。て。  
 迹。来。る。と。追。く。る。幫。回。の。ま。ま。と。う。ら。け。け。て。人。々。後。

賣油郎



の頃とて、うらぐらぐらと、風の吹く  
 男女ありかの余も、聞か  
 たましく、柳の影の話を、い  
 るが、廊の水を、飲ねば、其  
 顔と、まろず、即ち、戯まぶとい  
 ねん、まろず、い、たもの、あき  
 ま、洗く、また、さも、せ、ま、え、ろ、ろ  
 ら、ま、留、ま、へ、と、た、た  
 ま、ろ、ろ、ぞ、が、中、に、一、條、を、た  
 まで、髪、を、免、貌、世、に、双、び



ふさ、婦、人、う、ろ、その、お、拾、ハ  
 武、園、む、ら、さ、さ、よ、條、な、る、後、の  
 う、い、ま、よ、向、む、く、の、中、ま、と  
 いくら、も、か、さ、ね、倉、庫、の、幕、う  
 づ、だ、う、よ、む、と、び、瓶、樽、の、こ、し  
 も、の、あ、ご、や、ら、よ、向、練、の、摺、子  
 かけ、た、る、靴、い、鹿、の、一、死  
 と、棲、風、よ、う、つ、と、も、い、く、る、は、じ  
 く、そ、え、高、ま、の、知、り、も  
 い、と、ん、風、姿、ま、ど、い、も、裳、よ、く、れ



おめの脚布のひらり  
 柳並の中は盛と又とら女と  
 八重岡ふもさるらと  
 余ま播はこれとあふで不ふみの  
 女とえて。忽ちと精神と  
 奪はま、さても〜かく半  
 めどやうら女、の世よ、あり  
 けものうと、眩をつら思はず  
 空檐とふるひて、うら〜と  
 かの一解の夜をととめて、



八

八



かしめ當下形、つるる日西山に没し、東寺の入相違  
 道よりひびきこえておぼろしく小善とくりくも、彼婦女の  
 おと登るといひたまふ。流いのとき、柳のまねく出はる  
 大門と弑て、清魚の瓦街に入。通筋とわけて揚屋所  
 の角亭おろりうらへ、さく遠入るまへ。余を謝おひはる  
 こゝかの女の拙おらん。内のやうとさうひひるる。外  
 廳さらびやうふして、かたいらよ、一叢の竹と種ととし  
 火のやくところ。幾間としぬく。庭より下張の籠りし  
 かましく、翼よの拵とのほる。庭のやうつひごささうく  
 へ。余を謝おの廓といふ。またさうねい。是はうらる人の

任居どと、大いよあやうそいと、時とに穀雨の  
 おして、春風といへども、雲いもど名残とそよぶ風さよ  
 ごと。寒氣まよとば。余を謝たらまう、おぼるひとあ  
 空枝と見えたりしひま。東寺にて、午時の飯後といはれ  
 たるまうして、至生より朱雀野と控へ、廊中まがのぬえ  
 とまといまて。黄昏の余味くあまきとて、因一説、おま  
 るとら。机と防ばんと。そよと尋ねておぼる。さうは  
 まう。柳づもとお。湘簾かこそ、一個の、おま  
 擔とふろして、ま入。ほねよ、高みよかて、所  
 せとまどし。今日、おま、と見らる。かのお

あういハ内うちすとききバ。因よ一杯とかたふけ。糸いと髪かみ瓦わ人ひと  
時ときの真まま糸いとトて亭てい主しゆと叫こゑひて。ぬ酒ぬさけハ竹たけさうも。酒さけ  
そへて。あたへよとつよまうせて。湯ゆ煮にの至いた腐ふさ音ね  
たるを。二三二三杯はいりりて。相あひ酒さけ番ばんともらま。ま。余あまを房ふささ速すみ  
おけ。大門だいもんの中ちゆうハ竹たけとつよふやと向むかふ。亭てい主しゆをうとまて  
おま。り。仲ちゆう方ほうどのハ乳ちゆう踏ふみ人ひとう。都みやこも名なをう。た。湯ゆ煮に  
の花はな衝つとあう。う。どや。こまたハ竹たけ玉たまの人ひとね。う。ま。ま。  
かま。バ。余あまを衝つこま。か。ず。て。お。ハ。け。ふ。ハ。竹たけ澤ざ所しよも。ま。  
う。ふ。う。と。糸いとと。う。う。て。な。あ。ら。バ。先せん列れつ大だいせい。いの。野の女にょ  
う。ら。交ま。了り。榻たたの。花はなとかたけ。喫くひつとて。け。門かどへ。入いる。

中ちゆうハ。実じつ際さいの。衣い袂たもと。向むか流りゆうの。帽ぼう子こと。真ま一いつ人ひとハ。廊ろう  
の。抱かか女にょなる。け。と。向むかふ。亭てい主しゆ。類るいハ。歌うたと。よ。せて。其そのハ。女にょハ  
女にょと。あ。う。ど。と。う。人ひと。傍かたわらハ。先せん三さん板ばんの。もの。振び挽ひと。う。ら。ひ  
后ごろ。ろ。ご。子こと。と。り。て。ま。ハ。今いまハ。廊ろうハ。名なを。う。ま。ま。振び挽ひを  
の。吾わ妻さい。大だいま。ま。と。り。て。と。り。ハ。浪なみ花はなの。新あらた所ところ。全ぜん整せいの。う。  
と。う。う。一いつ。屋や屋やの。吾わ妻さいを。ま。ま。が。妹いもうと女にょ。お。ふ。り。て。花はな戸かどを。ま  
と。い。ひ。て。市いち女にょ。房ぼうの。う。づ。ま。ふ。も。劣せう。ご。ろ。出で。名なを。ま。ま。と。り。て。  
名なと。ハ。吾わ妻さい。踏ふみと。叫こゑひ。て。け。廊ろう。う。ら。は。し。く。く。性せい。昔むかしの。性せい  
大だい。務むま。ど。お。は。な。く。近ちか。以も。の。出で。色いろ。的てき。と。と。う。ら。ふ。と。や。と。り。  
か。と。便べん。と。亭てい。主しゆ。と。り。る。出で。名なの。門かど。お。あ。ら。う。と。我われ。う。う。う。う。

あらど、あつて遠いふもやといへば、いやといふか、朝もく  
 こふとより、店と貸さめたるふ、ぐんハ長松ト、  
 錢持室所の梅屋大盡。出名と共に嵐山の方へ、  
 として、竹葉七挺、むつらう、け門と出、  
 保兜丸、小三板、兩三個と連て、毛氈行厨、ぶろ、  
 るど、金角、一、て出、りぬ、日暮、小、薬、  
 ぞ、  
 ぞ、  
 男といひ、の、  
 余を、  
 余を、

は、  
 だ、  
 め、  
 ハ、  
 と、  
 一、  
 し、  
 他、  
 ろ、  
 ど、

東海道



余ふんも、囊の中よふこめす。歯ざつりし、衣たしひしり  
この本後ものよてハるる。且、羽織の羽織よ、さくふと  
の若もの、バ、島の中、さうさめ、この、備付、く、織の、事、に  
袴、ふし、加、賀、筋、の、切、金、目、貫、の、腰、紐、と、さ、め、ね、る、不、都  
合、ぬ、わ、へ、ん、ひ、ね、三、十、金、の、い、ろ、う、ん、照、と、ね、ハ、出、名、一、向、こ  
ま、す。一、衣、敷、腰、紐、ハ、損、料、一、十、金、と、貫、と、  
ま、へ、一、枚、の、樂、ハ、い、ろ、う、ん、か、こ、し、と、け、て、え、ろ、あ、ら、れ、お、き、  
か、限、り、と、お、つ、ら、な、さ、事、う、ら、ち、の、價、を、任、り、お、ね  
ら、ば、一、生、の、い、ろ、う、ん、づ、う、よ、一、枚、ハ、し、と、め、ん、と、お、り、ひ、て、お、す、ね  
た、ろ、よ、と、お、お、い、い、噴、た、る、酒、飯、の、あ、い、と、拵、入、て、ス、振、と、お、

て、ま、出、ろ、う、ん、を、ご、う、ら、お、り、い、ろ、う、ん、や、う、に、世、の、中、よ、お、の、や  
う、ろ、う、標、致、う、た、女、行、ぶ、と、お、ね、む、と、い、ろ、う、ん、い、ろ、う、ん、再、び  
え、ろ、事、あ、ら、ん、や、た、お、い、む、べ、と、い、天、皇、と、お、女、し、お、て、  
お、人、の、腰、も、もの、と、る、を、と、搦、王、殿、息、せ、い、お、い、ろ、う、ん、  
お、ひ、て、彼、も、一、標、院、の、者、と、お、ら、ど、ん、ば、お、の、ま、ご、と、お、た、ま、  
つ、し、と、お、腰、の、身、か、と、い、て、今、日、の、い、ろ、う、ん、眼、よ、お、ろ、う、ん、  
お、ろ、べ、と、ろ、う、ん、同、の、命、救、一、度、の、と、い、と、お、ら、お、り、お、い、  
お、婦、と、お、一、枚、を、お、と、お、い、お、り、お、い、お、い、  
し、お、り、お、つ、け、つ、ま、と、お、の、あ、う、と、ま、と、う、つ、り、お、い、  
お、と、い、と、さ、き、て、お、日、ち、う、ら、と、お、せ、ど、も、二、百、文、の、利、お、

得ることゝ一鳴半行路致海よあらざ山ふあらざ人  
間半霞のくろしそひとへよ宿世の因縁よ  
あつべしといはるごらとけしるるが

きつとつらしと世のあことまよ  
おもへば始まづいきて  
後高きつふまを  
茶室よほろろ  
たるもね  
くふはんの  
倉にまて



食ともと  
いろむま  
こまごころの  
あつらひ  
あつるまが千金の  
富もいそおのほと  
あまが十金に得るは  
通ふと本やあんと  
自からあつるは  
倉の底にけいふわいへ

物狂ハしきおもぢらも程なく銭を貯めしめてゆく。一知よかの金と積べし。思案をかされ  
けまとも。京来もつこの幸後とも生えともどりなる。不  
小しおまの十全に法して盛りの地着と標人とも思  
をこらるとい。確定がさつと花の指ともれんとする。又似  
まども。忽ち一つの計事ともかりひ出し。家あさよりを  
蓋の事ともぶさ世の利おと積とくいへ。命へ一日よ。二  
後用のすう。けあるとき。一徳目と除て。その日の費用は  
まどとさとい。一年よ三百六十日ふして二年よ及びて千金  
員よの余もつ。時々幸ひの設めらば一年およともを

通る事あらんとを定む。さきおハひとも。彼吾妻  
路が面敷の。身よはさうとかりひあつて。お目より  
地よかとうつとぞ。生えとのと採ざりか。とかく  
悪業のやまそつて。いりんとも千奉通よ。小姓の方へ  
ゆあしも。うらくと花街のうらへひつきて。揚屋町へ  
いたる。長ね下のうらと。ひとよの吾妻路が宿とのそ。  
かりひあそし。幸よまの。かの門迎と。幾度り。行かふて  
内と。荒がよ。ふて。其方と。咎ら。廓の中と。あり  
ふらと。行止るよ。人。おとめて。使と。買は。價や。さうし。と  
格別よ。いり。能。と。ハ。家。毎。よ。受。殿。して。ふ。と。商。ひ

多く出来りやうふり後ハ長ね下も荒まると  
 まハ合家も大に必易くありて后ハ何づま路  
 親方ハ格致屋おる事とも知て大むね昭原の業  
 肉もふ不へ。是より各日ハ此廓と点てたまへつ  
 ま路通中の養ふて養ふるをえる日ハ又一層の  
 おもいと係て一とせ余の春秋とをどすうろふりいと  
 ひろつとさずして毎日の初分をさ櫃とたくへたる  
 員救と養ふる歩金一両が碎根二百八十目丁後  
 四拾二貫文余とあり。是と小判ハ何りて十兩ハ  
 余のぬまバ院ハありいと晴す時ありぬと。雀踊して

よろこびぬ

〇八回たどくまことの

余を働つらしおれやう廓ハ一夜の於真ハ公のま  
 ぬまども我身生開ハのら公とちだね世の交りて  
 うとくまいて張女綾綾とへ求めたる事あらぬハおと  
 さら揚屋の張さハあらざるもあらざたへ委とあざ  
 やらよお拾十分孤老と又とるも席上のおもひ記さう  
 園中のまこまし一向ハ又またる事もあらぬハ真おく  
 たのしおぬく又廓のものもあめらうせらとてハ一年の  
 辛若いよりからん鶴の格けはす二里のらよりを

年又一おまきども、千秋たつとぎらどんげの花の煙  
 とく、我身の縁より、暁の鐘とかどろとし、再會をらん  
 計るがし、ごよ一おと千代のたつし、ねまび且孤老の  
 かもひととままびたるよ、廓にゆくべしと、思ふに  
 定ぬ誰の御南と、おれは制度と、きらんや、ユメと  
 こら、くろがたりまらふと、撲地おて、そまよ、後所  
 の宗菴老ハ、醫女業とせず、まおまひと事と、ておに  
 島原の輝の名たらし、け人とし、揚屋の縁と向あき  
 らゆんと、おまき宗菴方よ、いたりて、要内とらん、宗菴の  
 病雲と、おれ、まづ外殿へ通し、足下ふ、おれ、おて、も



発動したまふかと同ふ。たゞあらず。松今日推素世  
 一ハ。P出とも取ういりくまど。生涯のわらう。野のさめ  
 修原のね位と一扱求とこ存念をまどもを。松の  
 及とまう。先生よハ死街の妙ハ究たまふとこま  
 及びとも。廊の制度。即振傳よあつり。度何云と  
 せし。いんざんよ。述べるとハ家菴大いよ笑ひて。さても  
 一松らう。おる。以。托風流いとん。と。おし。い。ふ。も。ま  
 松の。子。順。お。ら。る。く。お。へ。ま。い。ら。せ。て。う。り。廊。中。へ。い。ご。ま  
 べし。と。子。迷。よ。許。謀。け。ま。ば。余。ま。清。か。ん。け。し。と。あ。ら。ば  
 拵。校。舎。の。わ。づ。ま。踏。と。買。せ。ま。う。ま。と。あ。る。よ。家。菴。大。い。に

あとま。し。う。ど。笑。ひ。を。包。ま。て。い。ふ。や。う。彼。も。ほ。し。拵。君。お  
 ま。ど。も。當。世。の。出。ま。の。的。と。て。出。名。の。守。え。あ。ま。ハ。守。り。の  
 價。ふ。て。ハ。許。さ。ず。と。お。し。つ。つ。な。ら。ば。他。の。を。失。よ。て。も。よ  
 かる。べし。とい。へ。ば。余。ま。清。頭。と。お。り。ふ。る。さ。ら。な。他。の  
 拵。女。よ。念。ま。し。た。が。か。の。吾。妻。路。と。も。と。め。て。一。扱。の。教。養。と  
 ぞ。一。度。念。致。し。と。ま。い。ら。價。の。ま。ま。も。兼。て。ま。ま  
 あり。圓。金。十。二。三。金。ハ。終。ハ。あ。り。と。守。て。家。菴。の。う。り  
 小。批。置。る。や。う。ハ。お。ハ。渠。賣。く。の。た。り。よ。廊。へ。い。ま。と。被。ら  
 度。中。の。懸。お。を。見。て。急。相。せし。もの。ら。ら。ん。賣。健。舟。の  
 名。限。と。も。毎。べ。ど。出。名。二。ま。ま。あ。つ。ま。踏。と。い。ど。ま。ん。と。ハ。



今の月とる。猿も似たる。裏うさふ。いりほど。お教。染た。ま  
 とも。彼を買。返して。うさふ。巫山の。夏と。集。ぶ。こと。あ。い。し  
 ー。く。漂。来。る。事。と。と。い。へ。く。魔。も。の。よ。せ。ハ。一。段。の  
 た。の。し。そ。る。り。と。お。か。ひ。て。詞。ユ。も。に。り。し。と。バ。う。り。の。執。心。さ。う  
 バ。目。初。會。の。制。度。と。傳。へ。べ。し。記。債。書。と。ま。く。め。う。え。と。  
 机。の。上。の。灰。も。紙。も。とり。添。て。あ。た。へ。く。も。ハ。余。を。濁。ハ。請。ひ。で  
 一。く。ふ。是。と。さ。び。と。が。り。て。書。付。々。々。家。卷。ハ。乾。び。と。う。嘆。き  
 志。て。い。へ。ら。く。目。孤。老。は。ト。め。て。揚。屋。に。いた。ま。バ。火。車。保。児  
 玉。筆。と。基。よ。の。せ。捧。出。ほ。い。て。他。の。女。殺。と。逃。く。よ。こ。こ  
 び。て。酒。と。そ。い。ひ。孤。老。完。尔。と。して。玉。筆。と。とり。酌。し。め

圓知己のたねおまじ、其玉筆と火車よあそぶべし。お  
 青樓とドリての見まよハ、哥妓三四個も招きよれい。  
 孤老と繕まし、妓妓を小はけバ、おのく三弦と強て  
 強と唄ふ。その曲の終る時、一段夢をあけてぬくと  
 讀るるを、おびの別なう、表又定まるとい、廊中お  
 木立と、お集て一段まし、其おと定むまるとい、下  
 よハ、あづま路とつゝ、差のあまじ、そたま来る時、火車  
 孤老と引あはせて、玉筆が、おまよ、おまの、前にお  
 けバ、敵とつゝ、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、  
 して、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、  
 して、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、

玉筆とつて、三度いたぐ、おまよ、おまよ、おまよ、  
 大廳ハ、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、  
 いそと、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、  
 勢又せんよハ、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、  
 て、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、  
 某の、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、  
 らよ、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、  
 の、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、  
 ろま、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、  
 田中の、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、おまよ、



了く明日相傳せん。まがきむらび初雲の丈むねハ、かくの  
 通るるるとる。麻ものよとべと。庵まよて。似身まき  
 事と名まじく人に交せて教げまども。余を周ハ文に  
 めやうし事とハ公流うど。交のまきハ一く。扇面よ虫  
 とぐめまと。閨中の秘事ハとづうらば。早速又引つま  
 流ハるべしと。托と。通とて。差用のハ。何と。尋ぬまハ。當  
 世の大それ風ならべと。差羽織も。美敷内の大格又。振  
 出るべし。中忌と。帯ハ見斗らハ。小ねし。搦紐ハ。つら  
 ねる。羽金。他。至。了。まよ。から。ゆ。と。是。又。又。風。なる。ぬ。と  
 かいへも。まぐ。と。ま。ま。の。に。と。る。ぞ。懐。き。し。と。余。を。漸。馬。上。に

前年、煮賣の亭主が語たると、今の指家とハ、大それ  
 の風俗ハ、昨日ハ、又、やうなまども。宗菴が、おー、導する  
 と。今、孫。さ。ら。ん。と。信。ト。い。さ。う。も。う。と。ぐ。ハ。で。余。を。信。ハ  
 厚く、礼とのべ。カ。タ。の。傳。え。と。約。し。て。得。る。後。ハ。宗。菴。ハ  
 近年の、一真、お、今、の。丈。た。い。け。よ。と。後。筋。と。よ。ら。う。て。大  
 塚。茂。明。友。ニ。三。ハ。と。よ。ら。ハ。来。ま。ま。ハ。一。信。つ。た。の。し。と。ハ  
 け。う。り。と。て。余。を。周。が。痴。情。の。入。門。と。か。と。ま。い。皆。く。ま。ハ  
 ち。て。奥。よ。入。ぬ。原。来。う。ら。考。一。群。ハ。酒。の。社。中。ま。ハ。バ  
 庵。厨。より。佳。肴。と。求。る。よ。一。尾。の。河。豚。臭。と。た。づ。へ  
 来。ま。て。庵。丁。ま。一。皆。う。ち。み。ぞ。り。て。突。ひ。ら。る。出。立。斗。升

け魚よ毒めりしとええて、忽ち食くと叫びて、鮮血  
 ととと狂ひぐるぐるらふ、顔に肢むらさね、髪  
 ド、一日よ倒れぬ、下女奴僕ハ是にふどろに、髪死に  
 者の家くよ、若家宿が通家よ、まっせ、人皆つと、い來  
 て、強動し、ももししよ、死骸を、持つ、つぬ、ぬ、余も、汚  
 ハ、明る事とハ、知らず、ま、お、い、と、そ、ろ、か、の、扇、扇、の、死、に、  
 書と、ちまた、びよ、かへ、再、今、し、翌、日、も、朝、も、  
 都よりて、宗菴が、夜、類、類、類、類、托、つ、つ、  
 の、時、別、と、付、つ、ぬ、て、閨、中、の、秘、事、と、ま、ま、べ、と、宗、菴、が  
 宅、よ、ま、ま、今、や、葬、式、と、出、と、ん、と、と、ろ、ろ、あ、あ、へ、て、ろ

ろや、し、て、過、の、こ、お、と、なる、菜、蔬、う、ま、ろ、な、ま、ま、  
 や、う、を、向、向、え、取、宗、菴、が、毒、魚、よ、ま、ま、ま、ま、ま、  
 一、す、て、濃、と、備、し、お、り、い、と、や、ま、ま、ま、ま、ま、  
 揚、と、ま、ま、ま、の、制、度、と、相、傳、あ、つ、人、の、ま、ま、ま、  
 客、と、あ、り、て、仇、し、お、り、烟、と、成、ん、と、い、い、世、の、ま、ま、  
 たり、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
 と、も、た、の、ま、ま、ま、宗、菴、の、髪、死、と、げ、ら、う、ま、ま、ま、  
 万、よ、四、友、と、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
 境、何、れ、る、や、し、て、け、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、  
 ふ、り、入、り、時、宗、の、長、ね、下、ハ、恒、と、他、を、齧、死、ま、ま、ま、

青楼の事さるとかの地よけて是と懸まらんふらんぞう  
けついごろ事やららんといふく二変し。まふらあつへ  
たる衣執取らうあつへまどて赤あふかつく又家  
を小由きて。曆をひききたりて。服の下とさぐり。若日  
とまらび。夜のとほ。お粉とまらむに。個のへ。そまはら  
びへ。積たる。黄金とふところふまうと。ぬか今い宗  
菴が。仁まともうらう。記作書。の扇を。取たづと。鴻  
系として。出れらる。其。風俗大よ。又。夜まま。い。併と。ま  
この人。とまらう。二。評判して。據案といひ。あへるものも  
ろま。外。出。つ。頼。問。う。と。又。定。め。ま。も。あ。う。て。は。く。は。の。ま。れ

ども余を樹ハ身もかけず。た。廊の方よさくろどし。  
程おく長松下の門。四よいたりて。又。おりのけら。やうに  
我平日。又。け。家。よ。ま。う。て。は。を。賞。く。か。く。お。扮。て。  
を。扱。び。と。せ。ん。と。い。へ。ん。衣。よ。兼。引。や。唇。や。と。ふ。こ。う。に  
信。ま。う。を。出。て。少。時。た。ゆ。と。う。ら。外。面。を。う。り。あ。か  
下。男。又。と。が。め。て。油。垢。ど。の。よ。し。い。ま。を。我。その。す。が。こ。い  
いう。小。と。向。に。う。い。ち。と。ま。ん。者。へ。憑。や。う。と。人。事。は  
あ。う。て。推。索。お。し。た。り。と。り。ま。ま。ら。入。ま。と。て。い。ご。ぬ。け  
ま。ば。仲。居。等。の。客。人。と。い。は。し。一。ど。う。い。ま。を。出。て。見。ま。ま。  
廻。り。出。入。を。う。り。仕。坊。を。又。や。う。ぬ。り。お。扮。と。い。か。し。ま。う。て

何比への出出るやと。あやまを何の尾にほめて。余云  
 周のりふふ又生涯のかりけり。けり。花街の社位と。一  
 もとりたき。まぬまきども。又は格式とまきね。いん  
 へばよーと。あうらとまよ。て。懸まいらせんがため。な  
 たりと類に汗をまぐし。面と赤くして。おんごん又迷たる鳥  
 美こと。又接るのあけ。けり。からぬ。不都合ゆえ。果して  
 は。愛。油。行。風。類。や。り。け。ら。ん。合。家。の。大。ぜ。い。集。  
 おどけ事などいひ交へ。そとね。と。り。の。こ。り。て。一。日。に。ど。よ  
 りと笑ひる。

波うを巻三年

大 諸國集種問屋  
 阪 川

今道徳集巻の上

道修町二百目

伏見至市兵衛

